

# 体とこころの通信簿

## 眼瞼けいれん

## 顔のシワも受診のサイン

目の乾きやまぶしさなどの日常的な目の不快な症状は、ドライアイのせいだと思っていると、実は思いがけない病気の可能性がある。その一つが「眼瞼けいれん」。早めに正しく診断を受けることが大切だ。

眼瞼とは「まぶた」のこと。眼瞼がいれんは「眼瞼れん縮」といい、目の回りを囲む眼輪筋が勝手に収縮して、目が開けづらくなる。つまり、まぶたきの異常だ。

「『けいれん』という病名で誤解されがちだが、寝不足などで、一過性に

### こんな不調、眼瞼けいれんかも?

- ① ☐ まぶたが多い
- ② ☐ 外に出たとき、まぶしい
- ③ ☐ 屋内でもまぶしさを感じる
- ④ ☐ 目を閉じている方が楽だ(目をつぶっていたい)
- ⑤ ☐ 目が乾く
- ⑥ ☐ 目がしょぼしょぼする
- ⑦ ☐ 目の奥の痛み、不快感など、いつも目が気になる
- ⑧ ☐ 歩行中、人や物にぶつかりそうになる
- ⑨ ☐ 危険を感じて、車や自転車の運転をやめた
- ⑩ ☐ 向精神薬や睡眠導入薬を飲んでいる

(若倉雅登氏「眼瞼けいれん調査質問表」参照)

### ドクター三村の診断

①～⑦眼瞼けいれんは、9割以上の人がまぶしさを訴えます。ただ、まぶしさや、乾きや不快感などの症状は、ドライアイとも重なります。ドライアイと眼瞼けいれんの両方がみられることもあるので、きちんと診断してもらうことが大切です。⑧⑨は、目を開けていられないために起きる特有の訴えです。⑩薬の副作用の場合があります。



### 相談ナビ

眼科のほか、神経内科や美容外科でも治療しているが、ほかの目の病気と区別するため、最初には眼科を受診するのが無難だ。昨年できた診療ガイドラインは、日本眼科学会のホームページ (<http://www.nichigan.or.jp/member/guideline/keiren.jsp>) で公開されている。

目の下などがピクピクとけいれんする『ミオキミア』とは別。兵庫医科大学の三村治教授はこう説明する。三村さんは昨年、日本神経眼科学会の診療ガイドライン委員会で委員長を務めた。

眼瞼けいれんは、乾き感や目を10秒も開けていられないなど、ドライアイと共通する症状が多い。ドライアイを併発していることもあり、「誤診や見落としも少なくない」と三村さん。

目の不快な症状だけでなく、まぶしさが苦痛で昼間の外出を避けがちになったり、目を開けていられなくて運転中や歩行中に事故を起こしそうになったりした経験があれば、ドライアイと一度は診断を受けていても、改めて相談した方がいいという。「チェック表を思いあたるようなら、早めに受診を。その際に『眼瞼けいれんの心配はないですか』とひとこと伝えるのがいい」と三村さんはアドバイスする。

多くは40代以上で発症する。女性に多い。屋内外でまぶしさを感じるなど目の不快な症状と同時に、顔のシワが急に深くなってきたことが気になるときも、受診のタイミングだ。

治療の中心はボツリヌス療法。食中毒を起こすボツリヌス菌の毒素を使う。ごく少量の製剤を目の周囲に注射して、過剰に収縮している筋肉を一時的にまひさせる対症療法だ。国内で承認された医薬品で、治療は公的な保険がきく。ただし、1回の注射の効果は3～4カ月程度で、回復しない場合は何度も治療が必要になる。

まぶしさを減らす特殊なサングラスや、筋肉の収縮を和らげる眼鏡のほか、補助的に飲み薬を使うこともある。

(植敬敏)

この病気は、筋肉の過剰な収縮が起きる。長引くと、眉間に深い縦シワができたり、目尻にくっつきりしたシワができたりする。まぶたのききりしたために顔面のほかの筋肉も使うようになるので、口元のほうれい線も深くなる。

神戸大の一瀬晃洋准教授(美容外科)は「目を閉じる筋肉の働きは、表情で大切な位置を占め、顔の老化の半分を左右するといえるほど。美容的な側面からも、早めに的確な診断と治療を受けて、筋肉をうまく調整することが大切だ」と話す。